



「中国経済に陰りが...」

皆さんお元気ですか？

もうすぐ梅雨明けしそうですが、まだまだ鬱陶しい日が続きますね。

私は先週、久しぶりにスペイン出張に行ってきました。

実に4年ぶりです。といってもスペインでも大雨の日もありましたが...

ヨーロッパの豚肉価格は、今だに史上最高値を更新し続けております。

おまけに更に急激な円安の追い打ちが加わり、我々としても非常に厳しい状況です。

ただ今回の欧州の豚肉価格高騰は、近々収まってくるのではないかと考えています。

なぜなら、欧州の豚肉買い付けのメインプレーヤーである中国の経済の落ち込みが、かなり酷いからです。

中国問題の専門家である石平氏によりますと、「中国は今年の経済成長率を5%台などと言っているが、これはとんでもない大嘘である。

元々中国の統計などは全く信用できないのだが、中国財政部の税収に関するデータは意外と信用できる。なぜなら、これを基に翌年の予算組ができるので、誤魔化し様が無いからである」

これによると、今年の1-5月の国内の消費税の税収-16.1%、輸出入の関税収入-14%、車両の購入税-7.6%、株式取引の印紙税に至っては何と-36.4%である。しかもロックダウンでどこにも行けなかった昨年と比べて...という所が凄いことです。去年は車を買いたくても店がほとんど開いてなかったはずですよ。

さらに極めつけは政府の不動産の譲渡金額が-20%というものです。

中国のGDPの3割は不動産取引とそれに波及するものと言われています。

しかも「一昨年も20数%減少していたので、コロナ前と比べると半分になっているはずだ」とのことです。

この衝撃的な数字の落ち込みぶりは日本のバブル崩壊の比ではありません。

ひょっとすると我が国は世界第二位の経済大国に返り咲いてるかもしれませんね。

確かに中国人の主食である豚肉の消費者物価も、この世界的なインフレ下にもかかわらず、史上最安値に近付いています。

しかし価格が下がるからと言っても喜んでいる場合ではないかもしれません。

何故なら、これはもう中国で暴動が起こっても不思議ではないレベルだからです。

国家統計局の発表ですら中国の16-30歳の若年層の失業率が20%を超えており、実際はその倍の40%近くいっているのではないかという意見もあり、これもまたかなりの不安定要素です。

こういう時の独裁者が今まで何をしてきたかを考えると、そろそろ本格的な備えが必要かもしれませんね。

今回は以上です。

ご一読頂き有難うございました。

ブラックスワン食糧保障

草間 弘人

正しく表示されない場合は[こちら](#)

今後も引き続きメールの受信を希望される方は[こちらをクリック](#)してください。今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから[配信停止手続きが行えます。](#)